

合併については、「近隣町村との合併を模索するとしていたものの、現在まで合併は実現せず、単独で残っており、合併の可能性を全く否定するものではないが、自分の間自主自立のまちはぐくりを進めていく」という趣旨の回答をしました。

▼行財政改革について

「小野町の職員削減計画について」、「職員の採用について」、「町の考えている行革の目玉は何か」などについて質問がありました。

笑顔とがんばり行革大綱に基づいた職員削減を行っていること、平成19年度からは必要最小限の計画的な職員採用を考えていること、徹底的な事務事業の見直しを行い、重点選別主義により予算を編成していることなどについて回答しました。

▼公共下水道について

「公共下水道事業の合意形成について」、「2〜3年休止の理由について」、「公共下水道を実施した場合、他の事業が実施できなくなるのではないか」、「加入希望戸数について」などの質問がありました。

「施設整備に多額の費用負担が伴うことや、公共下水道の加入見込みの把握による計画自体の見直し検討も必要である」とのことから、財政が安定するまで実施時期を見送ることとした。」という趣旨の回答をしました。

▼企業誘致について

「工場誘致の見込みについて」、「みどりの工業団地の現状について」、「具体的な企業との交渉はしているのか」などの質問がありました。

「鶴庭の工業団地については、所有権移転が済み次第、具体的な誘致活動をしたい。4月から企画課を独立させ、積極的に企業誘致に取り組みたい。」という趣旨の回答をしました。現在は所有権移転登記も済み、県の東京事務所等を通じて誘致活動を行っています。また、いくつかの企業から問い合わせ、照会等もきています。

▼こまちダムの建設促進と上水道の第二次拡張事業について

「こまち浄水場建設経費の水料金への転嫁について」、「上水道本管からの引き込み経費について」などの質問がありました。

「こまち浄水場建設の事業費は約8億7千万円であり、ある程度の見直しは必要と考えているが、現在の料金も県内では高水準であり、簡単に上げる状況ではない。」と「こまち」趣旨の回答をしました。

▼産業の振興について

「団塊の世代の田舎で農業をやりたいと考えている人に対する考えは」、「農政に対する今後の施策について伺いたい」などの質問がありました。

「ふるさと暮らし支援センターなどと連携し、町の情報を発信し、田舎で農業をしたいと考えている人に対応していきたい。また、農政に関しては国の施策に伴い集落営農、認定農業者による農業の振興を進めるとともに、ミネラル野菜などの産地化を図っていきたい。」という趣旨の回答をしました。

▼右支夏井川の河川改修について

「河川改修の経過と今後の見通し」について質問があり、現在までの進捗状況と平成18年度の予算の状況などについて回答しました。

◆要望

▼公立小野町地方総合病院について

「病院の経営状況についても」と情報の開示してほしい」、「環境整備と医師の確保に努めてほしい」、「町民から信頼される病院にしてほしい」などの要望がありました。

▼少子化対策・学校の統廃合について

「0歳児の保育施設を拡大してほしい」、「親の迎えを待つ子どもを学校で一時預かってほしい」、「子どもたちが将来安心して働ける職場を誘致してほしい」、「学校の統廃合を早期実現するとともに、スクールバスの運行を充実させてほしい」、「出産による育児休暇等を企業ではとりにくいため、支援策を考えてほしい」などたくさんの要望がありました。

▼高齢者福祉について

「たかむら荘の終了時間を延長してほしい」、「たかむら荘の改装や食事ができる施設を整備してほしい」、「こまち荘の入居待機者の解消を図ってほしい」などの要望がありました。

▼行財政改革について

「町職員の自宅での諸証明等の取扱いサービスを実施している自治体があるが、ある程度の利便性の向上を図れないか」、「祝い金制度や補助金の見直しをしてほしい」などの要望がありました。

▼企業誘致について

「人口減少は大きな問題。企業誘致も新しい方法を取り入れ、積極的な行動をとってほしい。」

「男子型の企業でも早期に誘致して、町の財源確保に努めてほしい」などの要望がありました。

▼こまちダムの建設促進と上水道の第二次拡張事業について

「こまちダムの多目的ダムとしての活用」、「上水道本管の延長」などの要望がありました。

▼産業の振興について

「商業の衰退、後継者不足について検討してほしい」という要望がありました。

▼右支夏井川の河川改修について

「河川改修の早期整備」についてたくさんの要望がありました。



夏井の千本桜